

～スローガン～

侍魂

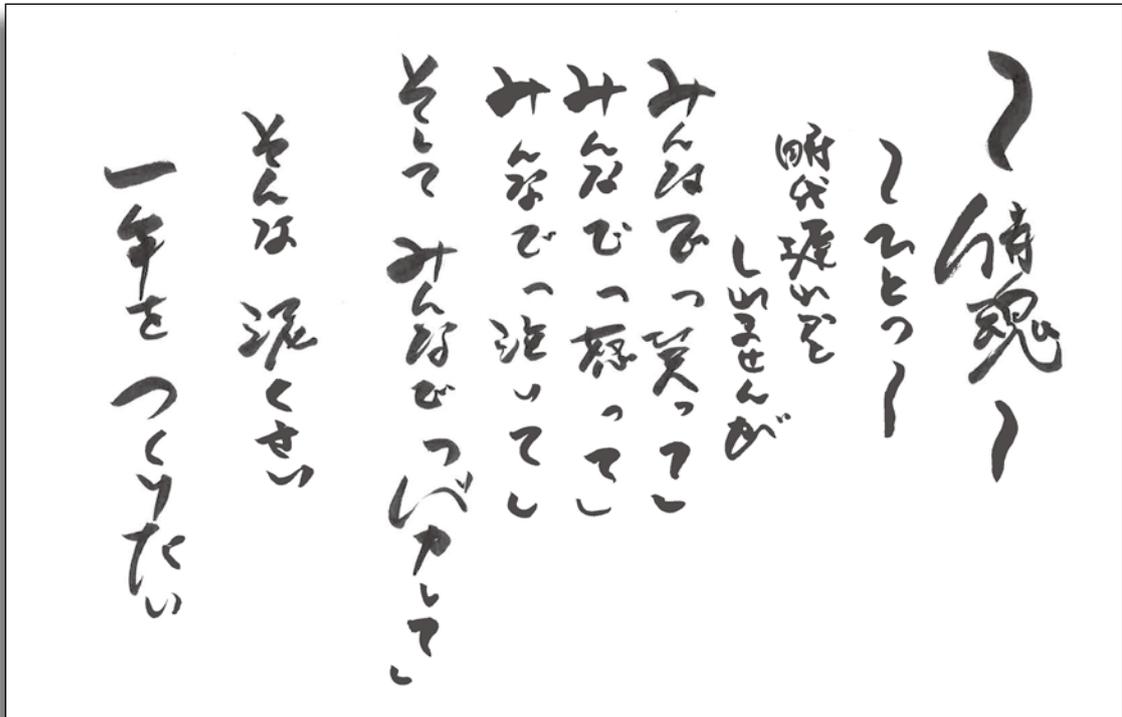
～テーマ～

ひとつ

第40号 2014. 8月

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 後藤太良 編集責任者：白石博昭 第40期広報委員会 印刷所：東京印刷(株)

雄飛



ご挨拶



鳥取県西部中小企業青年中央会
第40期会長 後藤 太良

鳥取県西部中小企業青年中央会 第40期会長を務めます、後藤太良でございます。

この記念すべき第40期に会長という大役を拝命し、緊張と不安に包まれておりますが、再度、気合を入れ直し1年間全力で務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

7月の40周年記念式典では、ご多忙の折ご来賓の皆様をはじめ、関係団体の皆様、OBの皆様のご臨席を賜り、盛大に開催することができました。これもひとえに皆様のご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。心より御礼申し上げます。

第40期はスローガンを「侍魂」と掲げ、活動テーマを「ひとつ」といたしました。

我々はこの地域に根差す企業の代表としてこの会に参加しています。若さという刀を携え侍の如く、会員ひとりひとりが強い心をしっかりと持ち"常在戦場"の精神でこの地域にある問題点に目を向け、夢のある地域にしていくべくしっかりと活動をしていきます。そして、その活動の中で全会員が心と心をぶつけ合い、しっかりと議論を行い、みんなの思いが「ぎゅっ」と握った「握り飯」のように「ひとつ」となることで、今の時代に相応しい活動に繋がると考えます。

1年間「侍魂」の旗印の元、みんなで「ひとつ」となり活動をしていきます。

とにかくみんなで「笑って」「怒って」「泣いて」そして「バカ」をして…。そんな泥臭い1年間を全会員で作りたいと思います。

この40周年という節目の年に、諸先輩方が築かれた伝統と魂をしっかりと受け継ぎ、今の時代に挑み続けてまいりますので、1年間、よろしく願いいたします。

委員長ごあいさつ



総務委員会
(担当副会長:竹ノ内賢一郎)
委員長 山口尚文

第40期総務委員会は「隠し切れない存在感」というテーマで活動致します。総務委員会とは、会の中での裏方としての役割を担っており華やかな存在では決してありません。しかし、その裏方の仕事に全力で取り組む姿は、時に美しく皆様の目に映るのではないのでしょうか。私たちが目指す境地はそこにあります。きっとその存在は、見えないように見えてしまい、何故か感じてしまう「おもてなし」を追及して1年間活動して参ります。

又、担当させて頂く事となっております他団体との交流事業に関しましては、会員同士の人的交流を目的とした交流事業を開催出来ればと考えております。

何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます抱負とさせていただきます。



侍委員会
(担当副会長:小椋崇永)
委員長 拝藤博幸

皆さんこんにちは。第40期侍委員会委員長をさせていただきます。拝藤博幸です。

主に、新入会員の育成をやらせて頂きます。新しく入って来られる会員に分かりやすく、中央会の先輩から教えていただいた事を1年間、先輩会員と共に学んでいきたいと思います。

今までにない委員会活動を、会員と共に楽しくやっていけたらと思います。また、OB交流会の担当もさせていただきます。今までお世話になった先輩方々と新入会員の架け橋となるように中央会活動を全力で努めてまいります。随時、新入会員オリエンテーションを開き、皆さんと早く交流が出来るようにしていきます。そして、来期の委員会で恥じぬよう送り出したいと思います。

他の委員会にも、研修としてお邪魔いたしますので宜しくお願いします。やったるで〜!



地域ビジョン委員会
(担当副会長:瀨田 修)
委員長 廣谷栄一

この度、第40期地域ビジョン委員会の委員長を拝命致しました廣谷です。

後藤会長から、地域活性化と夢のある地域づくりを考えるという活動方針を頂きました。それを受け、当委員会では運営テーマを「感謝」とし、自分たちが中央会の活動の場に参加できる境遇にあらためて感謝しながら、鳥取県西部地域の再確認と再発見を行いたいと思っております。そして、運営キーワードを「こども」とさせていただきます。地域の夢と活性化の原動力は「こども」達にあります。私達が「こども」のときにあった、あのワクワク感を今の「こども」達に教えることができれば。逆に今の「こども」達から私達が思いもつかない驚きを教えてもらえたらなと思っております。どうぞ1年間宜しくお願い致します。



広報委員会
(担当副会長:白石博昭)
委員長 福山輝展

第40期広報委員会委員長を拝命致しました福山輝展です。今期の広報委員会テーマは「伝える！楽しむ！」です。広報に関して素人の私ですが、広報とは何かをじっくり考えた結果、残ったのがこの言葉でした。面白いものを作るには、まず作り手側が楽しむことが何より大切だと思います。

後藤会長の「ハンサムもホームページも皆さんに次はまだまだと待ち遠しく思ってもらえるようなものにして欲しい」という言葉を胸に、白石副会長、赤井副委員長、そして委員会メンバーの皆さんと、中央会のこと、会員企業のこと、そして会員の魅力を、会の内外にしっかりアピールできるような活動を楽しみながらやっていきます。

皆様には原稿依頼や取材などお世話になる事があるかと思いますが、その節はどうぞよろしくお願い致します!



政治行政委員会
(担当副会長:長谷川洋司)
委員長 三輪龍介

第40期政治行政委員会の委員長を拝命致しました三輪龍介です。

第40期政治行政委員会は、委員会テーマを「中小企業の発展に資する行政施策を探る」とさせていただきます。これは既に始まっている人口減少の中、私達の暮らす県西部の活性化に向け、まずは私達が個々の中小事業者として成長し強くなること、そのための手段の一つとして、国や自治体が打ち出している中小企業への補助金や税制をはじめとする支援施策を活用していくことも有効と考え、中小企業への行政施策に焦点を当てることとしました。

年間スケジュールをかなり詰め込んでしまい、委員会メンバーの皆様にはご負担をお掛けしますが、真面目に、でもバカもして、全てひっくるめて実のある1年間となりますように、どうぞ協力をお願い致します。



“〇〇”マルマル委員会
(担当専務理事:秋里武信)
委員長 山崎慎也

第40期〇〇委員会の委員長を拝命致しました山崎です。今期〇〇委員会はその名の通りフリーの委員会ということで、後藤会長より試練を頂きました。いろいろと悪戦苦闘しましたが、今年度の委員会のテーマとしましては、『個人の成長と会の活性化を図る』とさせていただきます。青年中央会はこの度40周年を迎え、この40周年を節目に更なる発展を図るため、これからの時代や環境の変化に対応して行く強い組織を作るために必要な事業を行いたいと考えております。また、1年を通じて新しい試みにより、個人の成長と会の活性化が図れるようなものを〇〇委員会より見出し、実行していきたいと考えております。後藤会長の“やったれの精神”で1年間駆け抜けて行きたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

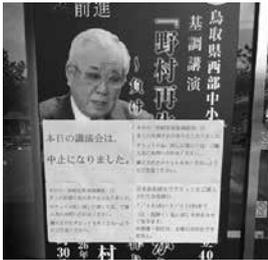
鳥取県西部中小企業青年中央会 創立40周年記念事業 基調講演

基調講演の中止について

まず初めに、鳥取県西部中小企業青年中央会 創立40周年記念事業における、基調講演として開催を予定しておりました野村克也氏による講演会は、出演者の体調不良により急遽講演を中止させていただきました。

ご来場を楽しみにしていらっしゃったお客様・OB会員の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

鳥取県西部中小企業青年中央会
第40期会長 後藤 太良
第39期会長 渡辺 一徳
40周年事業実行委員会委員長 松田 幸紀



キャンセルの連絡を受け、対策の協議から中止の決定・現場対応や払い戻しの段取りなど未経験の事態でしたが、会員が一致団結して中止対応が迅速かつ確実に行えたことは、我々の日々の研鑽の賜物だと思っています。

まずは、ご来場を予定されていた皆様にお詫びをさせて頂くと共に、厚くお礼を申し上げます。
(記事:桑本)

平成26年度通常総会



平成26年7月13日(日)、米子コンベンションセンター小ホールにて平成26年度通常総会が開催された。渡辺会長より「今日は、4つの事業が行われる10年に1度しかない大切な一日です。」と強い想いを述べられ、急遽中止となった野村克也氏基調講演についても「不測の事態にも迅速に対応する事が出来た。」と挨拶を述べられた。

続いて、新入会員バッジ授与式にて、長谷川恵一会員と山内正樹会員と堀尾裕之会員を新入会員として迎え、3名は、それぞれの自己紹介と抱負を述べた。

そして、第39期の締めくくりおよび第40期の船出として通常総会が開催され、議長

進行のもと、第1号議案である平成25年度事業報告ならびに収支決算承認の件について、第39期盛政専務理事の説明後、審議承認可決された。続いて、第2号議案である平成26年度事業計画ならびに収支予算案について、第40期秋里専務理事より説明があり、承認可決された。

次に渡辺会長より特別功労賞の発表があり、北口新OBと森脇新OBが受賞され、お二方から現役会員に今後の期待と感謝を述べられた。続いて精勤賞・皆勤賞が発表され、記念品の授与があった。



また優秀委員会に絆委員会、栄えある最優秀委員会に40周年記念事業委員会が渡辺会長より表彰された。辻委員長は「委員会メンバーのお蔭であり、大変なことも沢山あったが、今は良い思い出ばかり浮かんでくる」と挨拶をされ、松田委員長は、「メンバーに1年間休まないようにお願いし、みんな協力して出席してくれた。心に残る良い1年間だった」と述べられた。



以上をもって、第39期渡辺会長の「実行力」から第40期後藤会長「侍魂」へバトンが渡された。
(記事:桑本)

卒会式

記念式典に先立ち、第39期卒会式が行われた。



まず、第39期渡辺会長より、「たくさんの卒会者を送ってきたが、今日は特に寂しく感じる。特に中央会での実績を積み上げられたからだと思う。」と祝辞を述べられ、一人一人に卒会証書と花束・記念品

の贈呈を行った。



卒会者代表挨拶として後藤公平氏より、サミュエル・ウルマン氏の『青春』という詩を引用され、「青春とは人生のある期間をいうのではなく心の様相を言うのだ」と語られ、「私の青春に区切りをつける時がきたと思った。派遣した会社の期待に、人として会として応える必要があることを念頭に置いてほしい」とお言葉を頂いた。

最後に卒会者より記念の目録贈呈があ

り、代表の竹中和孝氏より「卒会者9名の想いが詰まっているのでよろしくお願ひしたい」と述べられ、卒会式を終了した。



卒会式を迎えるごとに一つの時代が終わったのだと寂しさを感じる。それだけ偉大な先輩であった証拠であり、我々も目標とすべきであると思った。
(記事:桑本)

記念式典

記念式典が、米子コンベンションセンタービッグシップ 多目的ホールにて盛大に開催された。



40周年事業実行委員会委員長松田会員の開会宣言の後、渡辺直前会長より「本日を迎えるにあたり、ゴルフコンペ、市川海老蔵一座による舞踊を開催し、成功のうちに終わることができた。ただ、昨日行われる予定だった野村克也氏の基調講演については、氏の体調不良により中止とさせていただいた。周年事業のスローガンは『前進』とした。これは、先輩の積み重ねられた歴史を踏まえ、前に進んでいくことを意味している」と挨拶された。

その後来賓祝辞として、団体中央会専務

理事の清水徹男様より、谷口会長のメッセージとして「創造性とグローバルな視点で地域の活性化に役立ててほしい」と激励され、西部青年中央会OB会会長 土井一朗氏は「二市二郡に渡り、それぞれのリーダーとなった時に利害を超えた協力関係を築く下地を作ってほしい」とお言葉をいただいた。



来賓祝辞の最後には、鳥取県知事 平井伸治氏が立たれ、「西部、鳥取県、そして山陰を変えてほしい」力強く語られた。

そしていよいよ、記念ビデオの上映が行われた。

記念ビデオでは、30期から35期を経て今に至る10年間の活動を紹介した。地域のために、また自社のために何ができるの

か。今後の参考になるものであった。

そして、過去を踏まえ、次世代に力強く進んでいくために今後向かうべき方向性を指し示す提言書を作成し、提言部部長の赤井宏之会員が提言を行った。



提言書は40周年事業実行委員会委員長松田幸紀会員より第39期渡辺会長へ、そして第40期後藤会長へ引き継がれた。

そして、40周年事業実行委員会副委員長の足立駿会員による閉会宣言を以って、記念式典は盛会のうちに終了した。

(記事: 桑本)



祝賀会

引き続き多くの来賓・OB会員にご出席いただき、祝賀会が開催された。オープニングでは、会場と胸の鼓動が鳴り響く威勢のいい太鼓の演奏により盛大に幕を開けた。40周年にふさわしい祝い太鼓だった。



続いて、第40期後藤会長から「時代の荒波に立ち向かったからこそ今日がある。そのことを思い今年度のスローガンを『侍魂』とした。我々は若さという刀を持ち荒波に立ち向かい100人の会員の思いを握

り飯のように、握りしめ思いを1つにし、笑う・怒るなど、泥臭い1年にしていきたい。」と心のこもった挨拶を述べられた。

次に来賓を代表し、鳥取県西部総合事務所所長山根淳史様よりご挨拶を、続いて土井新OB会長より激励と祝辞を頂いた。

そしてメインイベントでもある懇親会は、野坂米子市長の乾杯で幕を開け、来賓・OB席へ現役会員が挨拶に伺ったり、名刺交換など積極的に行っている姿が多く見られた。笑い声の絶えない和やかな雰囲気の中、アトラクションとして、マグロの解体ショーが始まり、参加者皆で舌鼓を打った。続いて第40期役員紹介の後、第34回全日本トライアスロン皆生大会と後藤



会長激励として今川团长率いる応援団がエールを飛ばしている中、中島OBが突如壇上へ上がり、「これが本当の応援だ!!」と言わんばかりに威勢のいいエールを選手に贈った。

楽しい時間は、すぐに過ぎ、中締め挨拶は境港市市長中村様により「地元地域は中小企業の活躍があってこそ成り立つ。」と一本で締められた。

来賓、OB会員をお見送りした後、9名の新OBに現役会員から感謝を込めて胴上げを行い祝賀会は大盛況の中、閉会となった。

楽しい時間は、すぐに過ぎ、中締め挨拶は境港市市長中村様により「地元地域は中小企業の活躍があつてこそ成り立つ。」と一本で締められた。

来賓、OB会員をお見送りした後、9名の新OBに現役会員から感謝を込めて胴上げを行い祝賀会は大盛況の中、閉会となった。

(記事: 石原)



《盛り上がる祝賀会会場》



祝辞

鳥取県知事 平井伸治氏



鳥取県西部中小企業青年中央会創立40周年のご盛会を心よりお祝いを申し上げます。初代永瀬正治会長から、第40代後藤太良会長まで、関係者の皆様のご尽力の賜物と思います。

常日頃から機動的に、そしてパワフルに活動されるのが中央会の伝統と感じております。これからも、青年の英知と行動力によって鳥取県西部、鳥取県全体、そして山陰を変えて欲しいです。人間で言えば“不惑”を迎えたわけですが「one for all, all for one」の精神で、これからも突き進んで行って下さい。

ところで、中央会の発足は昭和50年9月17日と伺っております。実は、私も同じく9月17日生まれで、浅からぬ縁(えにし)を感じております。

最後になりますが、貴会の益々のご隆盛、会員所属企業の商売繁盛、皆様のご健勝をお祈りします。

四十周年記念事業を終えて

鳥取県西部中小企業青年中央会OB会 会長 土井一朗氏



創立四十周年の記念事業にお招きいただき、かくまでになった青年中央会を見ると、『英知・友愛・団結』の旗印のもと十年・二十年・三十年・四十年と、その時その歴史に参画した会員の青年らしい奮闘と努力の結実に大きな喜びと感動を覚えるものであります。そして今や、自他共に認める社会的に影響のある団体として成長した事を誇りに思うと同時に、その責任の大きさを痛感しなければならないと思います。

私たちの鳥取県西部地域は、今、大きく変化しています。高速自動車道 山陰道の全線開通を目前に控え、空港・港湾は共に国際化の整備が整いました。次々と開発の波が押し寄せています。地域が発展することは地域経済を担う我々にとっては大変に喜ばしいことです。しかし一方で、この開発や発展で私たちがどのように変わるのか、大きな課題である事も忘れてはなりません。ダーウィンの進化論の記述に「種の存続は、大きいからとか力が強いからではなく、周りの環境の変化に合わせて自らを変える力のあるものが種を伝えていくのだ」とあります。会員一人ひとりが「変わる力・変える力」を手に入れ、この地域の発展を築く牽引力としての役割を果たしていただきたいのです。

故・中村実 鳥取県中小企業団体中央会会長が「何ものをも恐れないでチャレンジする者こそ青年の特質である」と語られたように、漫然と時を過ごすことなく、その力を遺憾なく発揮され、すばらしい青年中央会活動が実践されますことを心より期待いたします。

40周年記念事業を終えて

40周年記念事業委員会 委員長 松田幸紀



先ず始めにこの度の40周年事業に、ご支援・ご協力賜りました、関係団体の皆さま、OB会員の皆さま、そして現役会員の皆さま、心より感謝申し上げます。

7月12日の基調講演は中止と言う残念な結果になりましたが、テーマ「前進」の元、現役会員全員が、それぞれの部内での役割を全うして下さった結果、5月17日「チャリティーゴルフコンペ」、6月4日「市川海老蔵 米子特別舞踊公演」、7月13日の「記念式典」、そして、記念誌の制作(9月17日発刊予定)、記念ビデオの完成、提言書の完成、広報活動・40周年作業活動・過去のデータの管理・保存、予算管理など行う事が出来ました。

私自身、中央会生活、最初で最後の「0周年」事業。

2点心に残るシーンが御座います。

1つ目は、「歌舞伎」公演の1部・2部共に会場が満席になった風景を後ろから見た時。

2つ目は、基調講演が急遽中止になった時、皆さんが汗をかきながら、コンベンションにお越し頂いたお客様に対し、丁寧なお詫び、ご説明をしている姿です。

本当に、ご迷惑お掛け致しました。心よりお詫び、そして感謝申し上げます。

終わって数日が経ち、やっと「実行委員長をやった良かった！」と感じております。

最後になりますが、40周年委員会メンバーの皆さま、各部の副部長、委員長の皆さまに、心より感謝申し上げ、感想と代えさせていただきます。

本当に有難うございました。



第34回全日本トライアスロン皆生大会

トライアスロン壮行会

第34回全日本トライアスロン皆生大会が平成26年7月20日(日)に皆生温泉を中心に開催されました。

まだ雲が多く、心地よさを感じる早朝6時からトライアスロン壮行会が行なわれました。

スイムの朝7:00スタートに向けて続々と選手が集まってきて、会場付近がトライアスロンムード一色になる中、中央会を代表して出場する“チームTSC”及びメンバーが参加している“チーム

のぼせたくり”に、新入会員を中心として結成された応援団より心のもった熱いエールが送られました。

トライアスロンは選手が個人の限界に挑む過酷なレースですが、日本トライアスロン発祥の歴史ある皆生大会は全国に知れ渡る有名な大会です。その大会で中央会の結束力が感じられる熱く、素晴らしい壮行会となりました。(記事:福島)



トライアスロン参加選手感想

チームTSC (白石会員、秋里会員、土岐OB)



昨年命名した「チームTSC」。この逃げ場のない名前にして今年も挑みました!

結果は昨年より1時間24分早い、18:49に見事ゴール!空はまだ明るかった。

スイム白石は恥ずかしながら大会前に怪我をし皆に心配おかけしましたが、何とか間に合い3kmを1時間3分でタスキ繋ぐ。

バイク秋里は相変わらずの身体能力で、しれっと145kmを5時間24分の好タイム。コスチュームもスパイダーマンで女子高生に大人気。ゴールはさらに全身スパイダーマンにわざわざ着替える徹底ぶり。ラン土岐OBは快調にスタート。灼熱の太陽の下、体力を大分消耗されましたが、35kmから見事復活!ご本人的には納得いかないタイムだったみたいですが、42.195kmを5時間18分で堂々の見事ゴール!チームのぼせたくりとほぼ同時にゴール出来たのも最高でした!皆さん一日本当にありがとうございました!(白石博昭)

チームのぼせたくり (後藤OB、福庭会員)



早朝の壮行会そしてオアシスA Sで皆さんに力を頂き「チームのぼせたくり」は4年連続完走とチーム記録を更新しました。大会当日も気を抜く暇ないボランティア部・マラソン部の皆さんにも応援とサポート頂きありがとうございました。

競技中、ボランティア部で担当した高校生の一生懸命な姿を見て嬉しくも感じました。選手として参加すると年齢や立場に関係なく大会に関わる全ての方が主役だとより強く感じます。行政のみならず公安の協力も大きく、選手のマナーも素晴らしい正に「自助・共助・公助」で守られてきた大会に出場していることへの喜びと、感謝を噛みしめながら走りました。今後もボランティアや選手経験を生かして大会にお役に立てればと考えています。

それにしても何か晴らしたい鬱憤でもあったのか、「のぼせたくり」「TSC」両チームバイク担当の後藤(公)OB・秋里会員のご両名はド派手なジャージと相まって、エリートトライアスリートに全く引けを取らないパフォーマンスを発揮されました(笑)。(福庭貴志)

新入会員が見たトライアスロン

volunteer

橋本真和

7月20日炎天下の中、「第34回全日本トライアスロン皆生大会」が今年も開催された。

この伝統ある大会にAS部として初めて参加した。作業はエイドステーションでの選手への給水・軽食の振る舞いだっただ。

「頑張れ!」「ファイト!」などと声を掛け、応援をしつつ、水やスポーツドリンクをタイミングよく手渡す。選手からの「ありがとう」の一言がこんなにうれしいとは…。

目のくらむような炎天下の中、水泳・自転車の競技を終え、駆け抜ける選手たち。その真っ黒に日焼けした肌と、流れ落ちる汗は非常に美しく「鉄人」と称される理由がわかった気がする。

終日、暑さとの戦いであったが、日焼けした肌の痛みが心地良い、思い出に残る1日となった。

高田典宗

皆様、どうもお疲れ様でした。今年初めてボラ部で活動をさせて頂き、大勢の方々の支えと熱意を改めて実感しました。特に今年40周年事業の準備もあり、皆様にとっても大変な会だったかと思いますが、協会の方から「今年は大成功だったよ」と仰って頂いたとき、今まで頑張ってきて本当に良かったと思いました。何度となく書類の修正をしましたが、選手がゴールする姿を見てその苦労は吹き飛んでいきました。それぞれの部署ごとに大変な仕事があり、経験してみなければ分からない苦労も多々あると思います。らせん階段は一周すればまた同じ方向を向きますが、経験という階段を踏むことで見える景色は違ってくると信じて、来年以降も頑張ろうと思いました。

第34回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

実行委員長 牧田継夫



第34回全日本トライアスロン皆生大会も無事終了いたしました。西部青年中央会としてトライアスロンに携わるにあたり、私から各部長・副部長に3点のお願いをしていました。

①各々が、お互いに協力しあうこと ~ ALL中央会で各部の作業も他人事と思わず、協力できることは進んで助け合うこと~

②部員全員を巻き込んで、やるなら楽しく、思い出に残る活動をする。部員が「また来年もこの部で活動したい」と思えるような工夫をし、次の人材を意識して欲しい~

③今回の役をステップとして、自分自身の成長にかけて欲しい

実行委員長としての力不足な点は多々あったかとは思いますが、当日は、各部それぞれの持ち場できっちり役割を果たして頂きました。中央会の皆がいたからこそトライアスロンが乗り切れたのだと実感しています。

最後に、大会運営のど真ん中でご活躍され、色々な角度から応援して下さいました中央会OB諸先輩方に感謝申し上げますとともに、時間のタイトな中、全力でトライアスロンに立ち向かった現役会員の皆様に感謝申し上げます。お疲れ様でした。そして、本当にありがとうございました。

AS部長 石原 効



AS部部長を拝命し、「選手に“また来年オアシスASに帰ってきたい”と思ってもらえること」と「参加したボランティア全員に楽しんでもらう事」を目標に決め、当日まで準備を重ねてきましたが、「不足備品はないか。」「もっと工夫が出来る事はないか。」と、日に日に心配が増してきました。

当日は前日の寝酒で、ぐっすり眠れ、体調万全で朝を迎える事ができ、「今日はやったぞ!」という気持ちしか無く、レース中は笑顔で走っていく選手や笑顔で送り出すボランティアのみんなの顔を見ながら「みんなの心が“ひとつ”になった。部長をさせていただけで良かった。」と思えました。

最後に牧田実行委員長・山内直前部長に沢山のアドバイスを頂き、そして森下副部長・本田副部長・山口副部長、多くの部員の方の支えが有ってこそ成し遂げられたと、感謝で一杯です。

マラソン部長 今川圭一



皆様、第34回全日本トライアスロン皆生大会のボランティア活動お疲れさまでした。今期、マラソン部長という大役を経験させていただき、人生の経験値が上がりスキルアップできた

ことに感謝致します!

中央会に入会してからトライアスロン活動のほとんどをマラソン部員として行ってきましたが、右も左もわからないまま責任者を受けてしまい、不安でいっぱいでした。しかし、牧田実行委員長をはじめとする歴代部長の親切で的確な指導や、経験豊富な副部長、各責任者、部員の皆様に支えられ、大変な中にも気持ちよく部長の職を務めさせていただきました。又、中央会内における各部の連携も高野ボランティア部長、石原AS部長を筆頭に、例年以上にまとまりよくできたのではないかと感じております。そして何より今大会も大きな事故もなく、無事に終了できたことが素晴らしいと感じました。

最後になりますが、来期以降も皆生トライアスロンは開催されると思いますので、機会があればまた、部長をさせていただければと考えております。私は意外と「トライアスロンのボランティア活動が好きなのかなあ?」と感じておりますので、その時は皆様、また今期以上のご協力賜ります様、宜しく願い致します!

ボランティア部長 高野真二



今年も大勢の選手のみなさんやボランティアのみなさんのおかげで、この鳥取県西部が夢と感動のエネルギー一杯の素晴らしい一日になりました。

ボランティアさんは心から選手のことを尊敬し応援し、そして選手のみなさんも「ボランティアさんの応援があったから頑張れた」と心から感謝されていました。この「お互いを思い合う心」が皆生大会の魅力の一つであり、10年もの間、私をボランティア部で活動させてきたのだと改めて実感できた大会でした。このような素晴らしい大会に携わるきっかけを作っていただいた中央会に感謝します。

選手のみなさんだけでなくボランティアの皆さんからも「また来年も来たい!」と言っていただけのような大会にしたい。そして「皆生大会のボランティアは日本一!」だと言っていただけのように、これからもみんなで頑張っていきたいと思えます。

最後になりますが、ボランティア部員のみなさん本当にありがとうございました。そしてまた来年も一緒にやろうね!

鳥取県中小企業青年中央会 第40回通常総会

平成26年7月22日、ホテルニューオータニ鳥取において、鳥取県中小企業青年中央会 第40期通常総会が開催された。

後藤会長を始め、西部の55名を含む137名の会員が参加した。

まず、水野県会長より会長挨拶があり、テーマ『共感力』について活動してきた事やその活動の内容などを話された。

続く通常総会では、牧浦副会長が議長に選出され、議案書に従い進められた。第一号議案では、平成25年度事業報告・収支決算書、第二号議案の任期満了に伴う新県会長指名承認について、中部の和田憲児県会長候補が発表され、こちらも満場一致にて承認された。

新年度議案である第三号議案の役員指

名承認の件では和田新会長より役員が発表され、第四号議案の平成26年度事業計画・収支予算書(案)が提出され、共に満場一致にて承認された。

最後に、和田新県会長より新年度のテーマ『心響～響きあう心～』が発表され、力強く次年度への決意を述べられ、無事通常総会は閉会となった。

続いて来賓の方々をお迎えして懇親会を開催した。

最初に県会長の鍵の引渡式が行われ、第39期水野県会長から第40期和田県会長へ、鍵の贈呈が行われた。

和田県会長は「大事なものは絆であり、繋がりにある。その想いを大切にするために、『心響』と付けた」と再度決意を述べられた。

来賓祝辞として、平井知事、団体中央会

の谷口会長より激励の言葉を頂いた。

続き楯の贈呈式が行われ、団体中央会の谷口会長より第39期水野会長及び各地区副会長へ楯が贈られ、サプライズとして第39期県出向役員一同より、第39期水野会長へ記念品がプレゼントされた。

乾杯のご発声を深澤鳥取市長より頂き、懇親会がスタートした。

余興としてアイサポート・アート鳥取キャラバン隊のPR・エコーとっとりによ

る太鼓の演奏により会場は最高潮を迎え、各地区の抱負や理事紹介、歓談を通じて地区間の懇親を深めた。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、中締めとなった。

ご発声は、(株)商工組合中央金庫鳥取支店 支店長の小林様より締めの言葉を頂き、盛会のうちに閉会となった。

(記事:桑本)



(待委員会)



堀尾 裕之 A型
米子信用金庫 総合企画部 総合企画課副課長 兼 財務課副課長
金融業
〒683-8601 米子市東福原2丁目5-1
TEL 33-1241 FAX 32-4068
(KT) 090-1350-0647
(EM) horio420@sea.chukaine.jp
S49.08生

<コメント>

この度は入会をご承認いただき、ありがとうございます。多くの方々と様々な活動を共にすることで、色々と勉強させていただきたいと思っています。皆さま、どうぞよろしく願っています。

(待委員会)



山内 正樹 B型
(有)サンキュービルド 専務取締役
建築業
〒683-0251 米子市兼久695-4
TEL 30-3007 FAX 30-3008
(KT) 090-8998-0496
(EM) m-yamauchi@sanyubuild.co.jp
S58.11生

<コメント>

7月より入会させて頂きました、(有)サンキュービルドの山内正樹と申します。建築工事の施工、設計業務を行っております。先輩方の行動や言動を肌で感じ取り、自身の力を高めていきたいと考えています。宜しくお願い致します。

編集後記

やってみて初めて分かりました。
雄飛・ハンサムの作成はこんなにもたいへんな事だったんですね。色々な事が時間との戦いで緊張しっぱなしの毎日です。皆さんに面白いものをお届けできるよう第40期広報委員会メンバー同ししっかり活動していきますので、これから1年間よろしく願っています。

(広報委員会 委員長 福山 輝展)

(待委員会)



長谷川 恵一
カルテック・ジャパン(株) 営業技術
農業資材の販売及び栽培指導・還元水生成装置の販売等
〒683-0033 米子市長砂町927-8
TEL 38-3600 FAX 38-3601
(KT) 080-1936-8333
(EM) todoke.tumasaki@hotmail.co.jp
S63.04生

<コメント>

この度入会しました長谷川と申します。青年中央会の活動を通して、先輩会員の皆様から培ってこられた知識と経験を吸収し自らの成長に繋がっていきたく思います。仕事、中央会、全力で取り組みます。宜しくお願いします。

新入会員

新入会員

お詫び

長谷川恵一会員の手帳記載のメールアドレスに間違いがありました。上記が正しいアドレスとなりますので修正をお願い致します。

8月役員会報告

8月役員会が平成26年8月1日(金)東光園にて開催されました。主な議題は以下のとおりです。

- ・総会・卒会式、周年報告の件
- ・8月例会開催の件
- ・9月例会開催の件
- ・その他

※なお、詳細については各委員長までご参照ください。

8月例会案内

と き：平成26年8月18日(月) 19:00~21:10
と ころ：国際ファミリープラザ9階 CHOUCHOU(シュシュ)
内 容：納涼例会(創立40周年記念事業並びに
第34回全日本トライアスロン皆生大会
の慰労並びに懇親)
担 当：第40期正・副委員長並びに会計担当理事